3月定例会 町政を問う 一般質問

Q 地域力向上への取り組みは

A 活性化プランの策定を

長島正一 議員

限界集落の対策が求められています。

将来、集落の維持機能や農地を管理する担い手の大幅減少が予想され、ひいては自治体の限界となっていきます。

当町の将来に向けての取り組みは。

山碕 英樹 町長

国、県においても限界集落の問題が認識され、集落の自立支援をする新たな施策が打ち出されています。

当町も十年後には、多くの集落が対象になると予想されます。

新年度、新たに元気な地域づくり事業に取り組み、地域からの活性化プランの策定を考えています。

A 自治区単位で

松田企画情報室長

集落カルテ作成を自治区単位で、また、将来に向けた集落診断の話し合いには、町外や大学生等の参画も検討し、地域プランの樹立を考えています。

Q 地域ブランドの推進策は

A まるごと飯南ブランドを

長島議員

昨年来、日本の食を取り巻く環境は、根底から見直しが求められています。

循環型農業を実現する耕畜連携や学校給食の食育、福祉施設等の食産業などの課題について、地産地消の足元からの取り組みが必要では。

山碕町長

丸ごと飯南町という地域ブランドづくりに努めます。

中 教育長

学校給食も積極的に農家のみなさんと協議しながら、地域の農産物を取り入れ、食育を推進します。

A 地産地消の推進を

熊谷農林課長

国、県の対策を踏まえ、地域資源を活用した本町独自の対策を進めていきます。

また、施設への地元産食材を増やすため、JAとともに取り組みを支援します。

田部副町長

町内の福祉施設（二一〇名）にも、安心・安全な町内産の食材を使用するよう指導します。

Q 飯南町の耕畜連携は

A 県事業を活用し推進

門 眞一郎 議員

稲作に続き、畜産・酪農も危機的状態となり耕畜連携による支え合いの仕組みにより、局面の打開を図るべきであり、耕畜連携の考えは。

山碕 英樹 町長

エコ米生産を推進する上でも、堆肥施用による地力の向上は有効で、町内産稲わら等の粗飼料の安定的供給は、子牛が健康に飼育されることで、安全な農産物の生産に結びつくと考えます。

県のプロジェクト事業を活用しながら、稲わら収集機械の導入事業とあわせて、飯南町版の耕畜連携を推進します。

中山間地域研究センター

Q ホームページの活用を

A 里山コミッション設立で

門 議員

公式ホームページのほかに本町を紹介するホームページをつくり、森林セラピー他、本町の売りたいものを積極的にPRし、新たな販売手段として活用する考えは。

山碕町長

様々なホームページを利用し、特産品は紹介はしていますが、本町まとめて売り込みネットはまだありません。

里山コミッションを設立し、特産品の販売拡大と情報発信をする計画で、事業者、団体等の販路拡大を支援します。

パソコンや携帯電話等の媒体を使い、商品宣伝、購入サイトの構築など事業者等のみなさんと一緒に取り組み、丸ごと飯南情報の発信提供を目指します。